

# みや わか

市議会だより



## 新春号

正副議長挨拶、議長の行事…………… 2  
各常任委員会挨拶及び視察報告… 3~4



### 前列 左より

神谷喜久雄 (総務委員長)  
中島 健三 (教育民生委員長)  
谷口 重隆 (副議長・教育民生委員)  
遠藤 嘉昭 (議長)  
川口 誠 (産業建設委員長)  
柴田裕美子 (総務副委員長)  
藤嶋 嘉子 (総務委員)

### 中段 左より

茅野 勝 (総務委員・議会運営委員長)  
山元 秀一 (総務委員・議会運営副委員長)  
弓削田 敬 (総務委員)  
島本 昌典 (教育民生委員)  
安永 友則 (産業建設委員)  
和田 善久 (産業建設委員)  
川波 留美 (議会事務局 議会係長)  
野見山優子 (議会事務局 議会係)

### 後段 左より

安河 英幸 (教育民生委員)  
染矢 正次 (産業建設副委員長)  
竇部 勝 (産業建設委員)  
清水健太郎 (教育民生委員)  
有田 勇二 (議会事務局長)  
神崎 将博 (議会事務局 議会係)

# 議長・副議長 新春あいさつ

新年あけましておめでとうございます。

市民の皆さまにおかれましては、夢と希望に満ちあふれた輝かしい新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

また、日頃より市政運営ならびに市議会活動に深いご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、平昌オリンピックでの日本代表選手団の活躍に感動と興奮を覚えた一方で、記録的な猛暑と相次ぐ大型台風の接近上陸、大阪北部地震や北海道胆振東部地震の発生は、まさに災害列島「日本」を象徴するかのようになり、あらゆる危機に対する備えの重要性と自然の驚異を改めて認識させられる機会になったのではないかと感じております。

さて、市政に目を転じますと、昨年3月に執行されました市議会議員選挙から議員定数を1名削減し、新たに17名の議員により本市議会がスタートいたしました。これまで以上に市民の皆様の多様な意見を市政に適切に反映させるための重責を再認識し、議員一人ひとりが研鑽に努め、資質の向上を図り、行政と議論を重ね、各種の課題解決に取り組んで参らなければならないと考えております。

そうした中、本市におきましては、昨年の6月末より新庁舎建設が始まっており、今後、中心拠点整備や旧若宮小学校跡地の利活用整備計画など大型の事務事業が進められていくこととなります。市議会といたしましても、その進捗を注視するとともに、市民の皆様の声を真摯に受け止め、各施策に反映させることで、誰もが宮若市に住んでよかったですと感じていただけるまちづくりを目指し、鋭意取り組んで参ることといたしております。

また、少子高齢化社会が深刻化する中、私たちを取り巻く環境は厳しさを増しており、社会保障や待機児童対策、定住化や地域活性化施策など取り組むべき市政の課題は山積いたしております。私ども市議会議員は、市民の皆様のニーズを見極めながら、執行機関とともに創意工夫と英知を結集して様々な行政課題に取り組んで参りますので、皆様方におかれましては、更なるご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、今年が平成最後の年でもあり、新しい元号のスタートの年でもあります。市民の皆様にとりまして、光輝に満ちた素晴らしい年となりますよう心からお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

## ■ 議長行事 (平成30年) ※主なもの

4月 11日	福岡県北部市議会議長会・副議長会 (中間市)
4月 16日	福岡県市議会議長会 (北九州市)
4月 26日	九州市議会議長会定期総会 (佐賀市)
5月 30日	全国市議会議長会定期総会 (東京)
7月 4日	全国市議会議長会理事会 (東京)
7月 13日	直鞍議長連絡協議会 (小竹町)
7月 26日	北九州都市圏域市町議会議長懇談会 (北九州市)
10月 11日	福岡県北部市議会議長会・副議長会 (北九州市)
10月 17日	福岡県市議会議長会 (朝倉市)
10月 23日	全国市議会議長会基地協議会九州・沖縄部会定期総会 (大村市)
11月 2日	県道飯塚福岡線期成会要望活動 (東京)
11月 12日	全国市議会議長会基地協議会理事会 (東京)
11月 14～15日	全国市議会議長会研究フォーラム (宇都宮市)
11月 27日	直鞍議長連絡協議会 (直方市)

二〇一九年

## 挨拶及び視察報告

### 総務委員会

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。本年もどうぞよろしく願います。

さて、当委員会が平成30年11月7日に新潟県見附市を訪問して行った行政視察につきまして、ご報告申し上げます。

見附市では、少子超高齢・人口減少社会でも安心して暮らせるよう、「健康」をキーワードに、健康施策4本柱（食生活・生きがい・健診・運動）をまちづくりの施策の中心に据えた「スマートウエルネスみつけ」を推進されています。

今回の視察では、この取組の提唱者である見附市の久住市長から直接お話しを伺うことができました。見附市は、健康のためには歩くことが効果的であるとの実証に基づき、普段の生活で自然と必要な運動量が満たされる「歩いて暮らすまち」を目指して、ソフト・ハード両面で様々な施策を講じています。実際に、体力年齢の若返りや医療費の抑制、介護認定リスク軽減など、

確かな成果が出ているとのことでした。住民がいきいきと暮らせるよう、

高齢者の生きがいと社会貢献の場づくり、外出したくなる魅力的な場所や、そのきっかけづくりと賑わいづくり、地域公共交通の整備など、多方面からアプローチがなされていました。中でも、地域住民が創意工夫しながら主体的に地域の課題に取り組んでいる地域コミュニティのあり方は、行政の支援体制も含めて大変参考となりました。

そのほか、空家対策や定住促進、安全安心の取組等についても説明を受け、併せて、4箇所の現地視察も行いました。その一つ、撤退したスーパーマーケットの建物を活用した市民交流センターは、運動教室や囲碁・将棋、買い物、立ち寄り等、多くの市民が利用する「出会いの場」となっていて、皆さんが笑顔で語らう様子が見られました。

また、定住促進の一環で分譲中の住宅地「ウエルネスタウン」では、健康に配慮した戸建ての住宅と多世代をターゲットとした集合住宅を併せ持つことや、ゆとりある共有スペースなど

が特徴的で、「スマートウエルネスみつけ」を具現化した、健康で幸せに暮らすまちをPRするモデルとなりました。

今回の視察では、まちづくりには、住みよい暮らしを創造する、将来を見据えた積極的な施策が肝要であると強く感じました。今後の宮若市のまちづくりにどう反映していけるのか、引き続き研究、協議を行う必要があると考えています。

なお、市内におきましても、企業誘致の状況や光陵ワンダーガーデンズなどの現地視察を行っております。



新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、つつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、教育民生委員会では、平成30年10月29日から31日にかけて、行政視察を行ってまいりました。

今回の視察は、教育、高齢者福祉などにつきまして、宮崎県えびの市及び鹿児島県さつま町、始良市におきまして調査研究を行いました。

まず、えびの市におきましては、今後検討される学校給食センター整備の参考とするため、えびの市防災食育センターを視察し、環境対策や食育施設としての機能、アレルギーへの対応等について説明を受けました。

当施設は災害発生時の食糧供給等の防災に関する事業と、平常時の学校給食や食育に関する事業を実施する複合型施設で、今年8月に運営開始し、全自動厨芥処理システムやバリアフリーの見学ゾーン、食物アレルギー専用調理室や洗浄ライン等を整備しているほか、備蓄倉庫には、米などの保存が可能な食材や防災用具も備蓄しており、自家発電設備により停電時にも稼働できるとのことでした。

### 教育民生委員会

次に、鹿児島県さつま町におきましては、高齢者支援にかかる主な取り組みについて説明を受けました。

高齢化率が39・4%と高いさつま町では、多くの高齢者支援施策が行われており、町独自の事業も多数行われております。

中でも、『おもりを使った「ころばん体操」は、筋力等に応じて重さの異なるおもりを使用し、6種類の体操を、童謡を歌いながら行うもので、原則として地域住民が主体で行い、現在は約1,000人が参加しているとのことです。

また、「高齢者生活べんり帖」は、地域の高齢者の望む暮らしを支えるために作られたもので、町全体の生活支援サービスや商店マップなどを介護状態別・サービス別に網羅しており、大変見やすく便利な冊子でありました。

最後に、同じく鹿児島県始良市では、学校教育に関する特色ある取り組みについて説明を受けました。

始良市では、平成25年4月に「子育て基本条例」を制定し、「家庭と学校、地域社会の役割と責任」について明記し、意識付けを行ってまいりました。

また、道徳性向上のため、「モラリティ・インブルーメント推進事業」

として、「あいらしみんなのカレンダー」の作成・配付や、事業実践発表会、研修会の実施等、積極的に取り組んでまいりました。

市内においては昨年、学校教育施設におけるブロック塀倒壊の危険性のある箇所や、7月豪雨における社会教育施設の雨漏り等の現地視察、通学路の確認等を行ってまいりましたが、今回の行政視察も含め、今後のまちづくりの施策に反映させるべく、更なる研究、協議を行ってまいりたいと考えております。



## 産業建設委員会

新年あけましておめでとうございませう。本年も皆様にとりまして健やかで、実り多き年であることを願っております。

さて、産業建設常任委員会が閉会中に行いました委員会視察についてこの書面をもちまして報告します。

今回の視察は、11月20日から22日に主要課題である農業の振興、活性化などについて、北海道留萌市及び滝川市において調査研究を行いました。

まず、留萌市は、農業と福祉の連携による6次産業化事業として、同市山間部にある中学校廃校舎活用を行い、野菜生産の振興や障がい者就労等の支援などを目指した農産加工品生産拠点を整備されていきました。施設運営をNPO法人が行い、同法人と市内の障がい者の就労支援事業所が契約を結ぶ形で、障害を持った方が作業に従事されています。ここで製造された切干し大根は、留萌市内や札幌市はもとより関東圏でも販売されているとのことでした。

次に、滝川市は、菜の花を活用したまちづくりとして、菜種栽培を目的とした菜の花の作付面積が日本一という

ことを活用し、5月中旬から下旬にかけて、たきかわ菜の花まつりを開催されています。同事業は、元々、菜種の生産者により始められたものですが、1週間ほどの祭期間中の土日には、ステージやグルメイベントを開催し、10万人程の入り込みがあるとのこと。海外からの観光客も年々増加しているとの事でした。この他、菜の花を利用した特産品も開発されており、多面的に菜の花を活用されていきました。

今回の視察では、本市にない考え方や施策を知ることができ、今後のまちづくりの施策にどう反映するか更なる研究、協議を行っていききたいと考えています。

この他、昨年行った本委員会の活動として、7月の豪雨により被災した箇所を現地で確認したり、道路整備における懸案箇所や水道施設の状況などを視察し、現状や課題等の調査を行いました。

